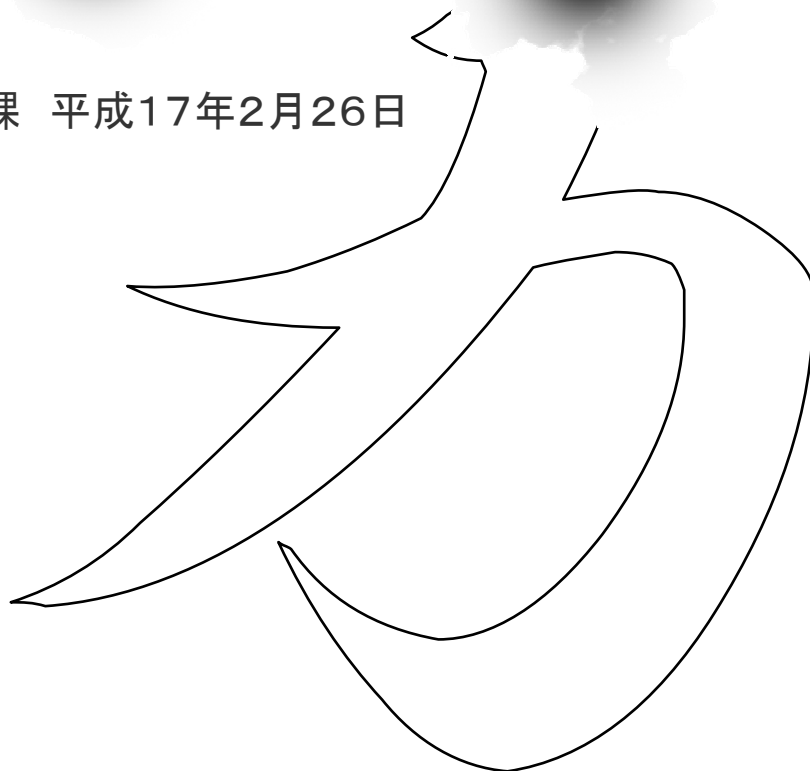


フォーラム さがみはらの底力
パートナーシップ事例集



パートナーシップ推進課 平成17年2月26日



目 次

㊥ 市民と市民のパートナーシップ

孫への遺産、花の絨毯芝ざくらづくり	1
あそびの城 JOI JOYスクール	2
地域内防犯パトロール	3
ステップハウス「みんなの家」	4
わが町生ゴミ減量プラン	5
豊町まちづくり協議会	6・7
第2回 淵野辺ボンバイエ！	8
木もれびの森ジュニアボランティア体験講座	9

㊥ 企業と市民・大学のパートナーシップ

企業の社会貢献推進会議	10
さがみはら産業創造センターと大学との連携	11
首都圏南西地域産業活性化フォーラム	12

㊥ 大学と市民のパートナーシップ

相模原・町田大学地域連携方策研究会	13
市民シンポジウム: LOVE YOUR TOWN	14
市長タウンミーティング	15
☆銀河祭りでのごみ分別	16

㊥ 市民と行政のパートナーシップ

計画策定・ワークショップ	相模原市地域福祉計画策定事業	17
	県道54号(相模原・愛川)におけるTDM推進事業	18
	旭町街区公園ワークショップ	19
	大野南地区こどもセンターこどもワークショップ	20
	まちなみウォッチング	21
街美化アダプト制度	道保川を愛する会	22
	ふちのベピース・ガーデン	23
	SOIN 花の広場	24
	相模大野中央公園内の花壇	25
ホームページによる情報発信	相模原市観光協会ホームページ	26
ボランティア・NPOとの連携	相模原市自然環境観察員事業	27
	みどりのボランティア育成・支援事業	28
	自然体験活動リーダー養成講座	29
	学校支援ボランティア活動の推進事業	30
	相模大野図書館 図書館アドバイザー事業	31
	橋本図書館 ビジネス支援サービス	32
	相模原市文化財調査・普及員制度	33

市民主導のイベントづくり	いきいきフォーラム	34
	市民平和のつどい	35
	相模原市民まつり	36
研究活動	市民との共同研究及び市民の自主研究支援	37
さがみはら市民活動サポートセンター		38
男女共同参画推進センター(ソレイユさがみ)		39
精神障害者地域生活支援センター カミング		40

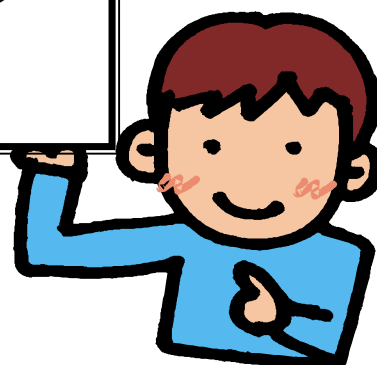
㊦ 巻末資料

さがみはらパートナーシップ推進指針ダイジェスト
 街美化アダプト制度実施要綱・合意書
 パートナーシップ事業助成金交付要綱

『さがみはらパートナーシップ推進指針』が平成15年2月に策定されてから、早いもので2年が経過しました。

相模原市では、指針の策定以前から様々なパートナーシップの取り組みが行われておりますが、この冊子では、平成15年度以降に、パートナーシップ推進課で把握した事例を中心に紹介します。

各事例については、それぞれの団体や機関などに原稿の作成をお願いし、パートナーシップ推進課で全体の編集をいたしました。



孫への遺産、花の絨毯芝ざくらづくり

■ 連携している団体等の名称

新戸芝ざくら愛好会
新戸老人クラブ寿会連合会
新戸自治会連合会



■ 代表団体の連絡先

新戸芝ざくら愛好会
会長 川崎喜代治
相模原市新戸2033
電話 046-251-0987

事業の目的

- 1 老人の生き甲斐活動
- 2 地域の自然と田園風景の温存

事業の概要

- 1 自然と田園風景を温存しながら、その中にある荒れた公有地を活用した花づくり
- 2 ボランティアと市の支援による平成6年4月～16年3月＝10ヶ年計画
- 3 事業区分

No.	事業名称	土地	市支援内訳	維持管理
1	通学路に四季の花さく花壇づくり 9ヶ所	下水道敷	平成6年12月～平成7年12月 場所づくり	老人クラブ 冬期除き月1回
2	散策路(あじさい、河津ざくら) 600m 彼岸花 保存 170m	廃堤防敷	平成9年～平成16年11月 場所づくり	同上
3	孫への遺産花の絨毯芝ざくらづくり 820m	堤防法部 活用	平成14年9月～平成16年10月 場所づくり	芝ざくら愛好会 冬期除き月1回

今後の課題

- 1 ボランティア活動で推進したものの永続性は難しいと考えられる。
- 2 多少の打ち切り交付金の支出が必要と考えられる。
- 3 団体別、地域別、目的別に別けた、市と協同した事業の推進
例えば 公園管理、低木管理
- 4 未利用公有地の提供

あそびの城 JOIJOY スクール

■ 連携している団体等の名称

相模台地区自治会連合会
地区老人クラブ連合会
スポレク相模台 JOIJOY

■ 代表団体の連絡先

あそびの城JOIJOY SC
相模原市相模台2-15-14
代表 菊地原 弘道
電話 090-2919-7455

集まれ！「あそびの城」JOIJOYスクール



事業の目的

青少年の問題行動が深刻化している社会的背景の中、地域、家庭、学校が協働し、子どもの多様な活動を可能とする「子どもの居場所」活動拠点をつくり、健全育成を図ります。

思いやりの心、命の尊さ、社会的規範などは、学校生活だけでなく、家庭や同じ地域社会で暮らす人々との交流を通してこそ生きる力となるものと考えます。そこで人と人、人と地域のつながりを大切に、支えあいの関係を築きながら、笑顔あふれる明るいまちづくりをすすめます。

理 念

あいさつの 笑顔が光る 相模台

事業の概要

内 容 伝承あそび「お手玉・竹とんぼ・あやとり」等
季節の行事・ハイキング・いもほり 夏祭り協賛
絵画教室 卓球、パドミントン、G/ゴルフ、
パタンク等の集いと教室開催(年6回)
三世代交流スポレク大会(年5回)
自治会運動会・公民館高齢者学級支援

活動日 原則 毎週土曜日の午前中と日曜日の午後

場 所 相模台小学校校体育館・校庭
相模台ふれあい広場 公民館他



絵画教室

今後の課題

会場の確保 スタッフの不足
事故対策「保険・補償」責任問題
運営資金確保

展 望

市民力を結集し新しい公共の創出に努めたい。
行政・諸団体とのパートナーシップにより継続したい。



スポーツ教室(パドミントン)

地域内防犯パトロール

■ 連携している団体等の名称

相栄地区防犯ジョイント・サーティ
特定非営利活動法人
日本ガーディアン・エンジェルス大和支部
相模原市立弥栄小学校PTA



■ 代表団体の連絡先

相栄地区防犯ジョイント・サーティ
相模原市相生2-13-5
隊長 飛澤大山

事業の目的

地域内で頻発する盗難、ひたくり及び児童生徒に対する変質者による路上犯罪等の被害、更に犯罪に起因する災害並びに交通災害を未然に防止し、常に住民の誰かの目があって犯罪が発生し得ないような、明るい街づくりに寄与する。

事業の概要

市内相生、高根2丁目、弥栄、松が丘の各地区の自治会員及び店舗・事業所等を持つ企業で「相栄地区防犯ジョイント・サーティ」を結成し、平成16年1月より、国際NPO法人の日本ガーディアン・エンジェルズ隊員の指導、並びに相模原市及び相模原警察署の職員の同行など強力な支援のもとに地区内の夜間防犯パトロール、街頭でのビラ配布等を実施してきた。

昨年夏からは地区内の小学校、同PTA、子ども会育成会等の参加を得てこれが一層活発化し、登下校時のパトロール、ごみ出しや犬の散歩を登下校時間に合わせるなど、地域住民の協力が得られるようになった。また、学校近接の自治会では、宣伝カーによるパトロールを実施している。

今後の課題・展望

パトロールの時間帯の拡張、行動範囲を住民の通勤・通学経路に広げること、このために若い人の参加など参加者の年齢層の拡大、自転車部隊など機動力の増強、パトロールの際の対応技術の習得・向上により効果を高めることなどが当面の課題である。

最近の防犯意識の急上昇が追い風となり、関係団体で腕章など装備の整備や、小人数でのパトロールも行われてきているので、先は明るい。



ステップハウス「みんなの家」

■ 連携している団体等の名称

ういず 代表 渡辺裕子
パラボラ相模原
代表代行 古川繁子

■ 代表団体の連絡先

NPO法人パラボラジャパン（申請中）
代表 森田政記
相模原市共和 4-12-8
電話042-755-9010



Eメール morita@masaki.cc ホームページ <http://masaki.cc/>

事業の目的

主として、情報弱者（障害者、高齢者、外国籍の人）並びにDV被害者等の社会的弱者を対象とした、自立支援活動を目的とする。

事業の概要

(A) 障害者自立支援に向けてのIT教室 〈参加者 4名〉

平成16年9月～17年2月

プログラム内容:①Windowsパソコンの基本操作、②Wordの基本操作、③電子メールの利用とWebの閲覧と検索、④音声ソフトを利用したExcelの応用操作、..等を実施しました。

(B) 多文化共生社会に向けてのIT教室 〈参加者 5名〉

平成16年9月～17年2月

プログラム内容:①日本語版Windowsパソコンの基本操作、②インターネットによる情報収集の基本操作、..等を実施しました。

(C) 心を拓く講座 “DVってなに?” 〈参加者 20名〉

講師 阿部裕子氏、NPO法人 かながわ・女のスペース“ミズラ”

日時 平成16年12月11日 13時半～18時、市民会館にて

プログラム内容: 13時半～講演、16時～交流会、16時半～個別相談会。なお個別相談会の後、当事者の希望により、みんなの家でカウンセリングを行い、心療内科医にリファーしました。

(D) 英語で あそぼ、地域の子ども達と公開英会話体験教室 《予定》

(E) 土曜日に みんなの家で フリー・スペース をオープンしています。

今後の課題・展望

心を拓く講座の受講者には、当事者としての自助・共助の心が芽生え社会参加に向けて、自信が持てるようになったことが成果と言えよう。DV被害者支援について当事者の話を聞くこともでき理解が深まった。更に社会的弱者の自立支援に向けて、IT教室もその一助となるように努力したい。

今後は、抱え込みにならない、自助・共助を進めるために担当スタッフの学習も必要であり、事業を継続するには、コミュニティ・ビジネスの展開が急務となろう。

わが町生ごみ減量プラン

■ 連携している団体等の名称

相模原いきごみ隊
農業生産法人青空農園
東第3自治会
相模原リサイクル連絡会

■ 代表団体の連絡先

代表 細田 理
相模原市由野台2丁目19番10号
〒229-0022
電話042-753-0340



Eメール saitowave@yahoo.co.jp (齊藤あて)

ホームページ <http://www.geocities.jp/ikigomitai/index.htm>

事業の目的

世界中の焼却炉の2/3がある「焼却依存症」の日本。ゴミを燃やし続けることは経済的にも環境にも未来への大きな負担です。私たちは「ゼロウェイスト」を目指し、燃やす事に特に問題のある生ごみの資源化を地域住民自らが考え実践していくシステムづくりを目指します。

事業の概要

家庭で出た生ゴミを堆肥として利用してもらい、できた野菜を食べてもらうという地域モデル事業を構築します。又、そのシステムが他の地域でも実施できるよう情報をHPやリーフレット等で公開していきます。

1. 東第3自治会会員を対象にリサイクル連絡会と協働し生ゴミ減量と資源化のワークショップを開催。
資源化の必要性とそれぞれの家庭にあった生ゴミの減量方法の理解を深める(生ゴミを出さない調理方法、密閉バケツを利用した生ゴミの堆肥化の方法とその利用法など)
2. 農業生産法人青空農園とのパートナーシップにより、キッチンと農家を結ぶ生ゴミ回収システム「KARS」を利用した有機野菜購入のモデル事業の実施 →週に1回家庭から生ゴミを回収し、その堆肥を利用してとれた旬の地場野菜を購入するシステム
3. 生ゴミから作られた堆肥材の成分調査とぼかしづくり

今後の課題・展望

循環型社会へむけた生ゴミの資源化、都市農業の振興、コミュニティづくりはどれも大切な課題です。市民ができることをやる、私たちがやれることを引き受けるという事は、きたるべき豊かな市民社会の萌芽でもあります。

市民、農家、行政に事業者、学校給食までこの課題に関わってくるだろう沢山の担い手と共に、大きな課題を小さな実践で解決の糸口を探っていくことは、わくわくするほどステキなことです。

豊町まちづくり協議会

■ 連携している団体等の名称

自治会法人 豊町自治会
豊町まちづくり協議会

■ 代表団体の連絡先

豊町まちづくり協議会
代表 松井幸雄
相模原市豊町11-2



事業の経緯と目的

豊町の概況 相模大野駅から座間方面に1.1km 面積13.4ha
自治会員約400名 非会員約50名 町外地権者約100名

平成13年当時の豊町

- 上鶴間線道路の開通
- スーパー三和の移転参入
- 南文化センター廃館のニュース
- 近隣町内に高層マンション建設

平成13年 3月 「豊町まちづくりを考える会」を有志で発足

平成13年12月 全住民にアンケート実施

予想を上回る回答率 「豊町ニュース」で全てフィードバック
最も多い意見要望

- ①良好な住環境の維持
- ②南文化センター跡地について
- ③スーパー三和前の信号機設置

平成14年 3月 「豊町まちづくり協議会」を設立

ビジョンを“わたしたちは明るく健康的なそして緑と触れあいと安全のまちをめざします”とする。

市はこの活動に庁内で公募した区画整理課 安藤氏、公園課 金城氏を派遣。

- 協議会内に3分科会設置
- ①地区計画推進委員会
 - ②南文化センター跡地対策委員会
 - ③信号機設置委員会

事業の概要と今後の課題

(1) 地区計画推進委員会

委員16名 自治会1区～6区各2～3名

市建築総務課 大塚氏(途中から梅澤氏に交代) 本橋氏

アドバイザー 北島氏(途中から松縄氏に交代)

全住民からのアンケート(意見・要望)とフィードバック(まちめと中間報告)の繰り返し
町内を住宅地(11.2ha)と行幸道路沿い(2.2ha)に2区分

建築物に関する事項 ①用途 ②最低面積 ③壁面位置 ④高さ

問題は高さ制限 第1次修正 住宅地11m・3階 行幸道路沿い14m・4階

→企業、マンション業者、病院等の反対をうけ調整。

第2次修正 住宅地13m 行幸道路沿い16m(北側斜線導入)

(次ページにつづく)

事業の概要と今後の課題 (つづき)

平成16年11月21日 市主催地権者全体説明会開催

住宅地区内から最高高さ緩和の要望あり。

発言者を訪問＝説得＝委員会調整の繰り返し、公益性業種と認め協議会に報告、承認を得る。

平成17年1月 再々修正地区計画書(案)を全住民、地権者に賛否のアンケート発信・回収

町内回収率 85.3% 賛成率 97.6%

平成17年2月 市、行政手続

市庁内縦覧 全住民案内 →都市計画審議会→決定→告示(予定)

今後の課題

全住民からの要望が高い景観・緑化等について自治会と協力して地区住民による「まちづくり協定」(紳士協定)を定め、美化運動を推進したい。

(2)南文化センター分科会

南文化センターの廃館情報をうけ、市に存続のよびかけ

市から計画案が示され、平成16年7月「跡地利用に関する要望書」を提出

同年8月、市長からの回答書受理

跡地 5,300㎡ 内 保育園 2,500㎡(～2,300㎡) 民営化

公園 2,800㎡(～3,000㎡) ワークショップ方式で検討

今後の課題

保育園 市保育課を通じ、民営法人と最終調整をはかる。

公園 ワークショップ方式で協議し、まとめる。

(3)信号機設置委員会

信号機設置の条件

①スーパー三和＝黒河内病院道路幅を6mにすること→市の協力で拡幅決定

②反対側道路を一方通行にすること→市、警察当局と協議を重ね、実施の方向にまとまりつつある。

結果は全住民に説明し了解を得て、市長宛に要望書を提出することになっている。



第2回 淵野辺ボンバイエ！

■ 連携している団体等の名称

麻布大学環境保健学部
NPO・企業・教育機関・行政
など32団体がブース参加
にこにこ星ふちのべ協同組合
NPOサポートセンター

■ 代表団体の連絡先

淵野辺ボンバイエ運営委員会
委員長 木下恵介



Eメール f-bom-ba-ye@mail.goo.ne.jp
ホームページ <http://f-bombaye.main.jp/>

事業の目的

淵野辺ボンバイエとは、参加型交流イベントです。麻布大学百周年記念ホールに学生、子ども、地域住民、NPO・NGO、市民活動家、企業、行政が集い、新たな交流・新たなつながりを創ることによって、参加者一人一人が新たな可能性を見つけること。それが淵野辺ボンバイエの目的です。

事業の概要

1月22日に実施した。プログラムは以下の通り。

交流ブース：NPO、企業、教育機関、行政など32団体が出展。

オープニングゲーム：プロジェクトワイルドのゲームでアイスブレイク。

大学地域連携プラットフォームシンポジウム：大学地域連携の可能性を語った。

パネラー 山岸秀雄(NPOサポートセンター)

渋谷勝美(大学地域連携方策研究会)

政岡俊夫(麻布大学学長)

マイクパフォーマンス：ブース出展者のアピールタイム

子どもエコ探検ツアー：学内の環境施設に子どもをご案内。

淵野辺スライドショー：淵野辺まちづくりのスライドとトークショー

ステージパフォーマンス：由野台中学校、ZAP☆ee、オスリーズ。

ラストゲーム：別れを惜しみつつビンゴゲーム

来場者、スタッフ、ブース出展者のべ300名の参加者を得た。

今後の課題・展望

今回のボンバイエは、大学地域交流に関して大きな成果があった。今後またボンバイエを開催するならば、今回の成果をベースに、①大学間の交流をすすめる。淵野辺地区の青山学院大学、桜美林大学、和泉短期大学との連携をすすめたい。②ふちのべ商店街との連携を基本に、地元企業や行政との連携をもっと進めてゆきたい。③子供向けプログラムの充実。

“森の達人にならないか！”

■ 連携している団体等の名称

主催：大野台地区青少年健全育成協議会
大野台公民館
主管：ジュニアボランティア・サポーター（森林ボランティア相模原こもれび有志と地域の協力者）
大野台地区青少年指導員



■ 代表団体の連絡先

大野台地区青少年健全育成協議会
事務局：大野台公民館内
Tel042-755-6000

Eメール oonodai-k@city.sagamihara.kanagawa.jp

事業の目的

地域の自然「木もれびの森」を活用して、年間を通じた森林の観察、森林の保全活動、森林を利用した遊び等の生活体験を小中学生に提供し、森の素晴らしさを体験すると同時に、森の役割や森と人との関わりへの理解と関心を深めてもらう。

事業の概要

相模原市から地域・子どもふれあい事業補助金の交付を受けて、平成15、16年度実施。活動内容は次の4要素をもとに年間12回（月1回）のプログラムを構成した。参加者は小学5年生から中学3年生22名であった。

- ①自然観察（森の構成、森の季節変化・植物の生長、夜の森、森の動物）
- ②森の保全活動（下草刈り、落ち葉かき、間伐、どんぐりの植付け）
- ③森と人の関わりを知る体験（ホダ木作り、椎茸菌の植付け、堆肥作り）
- ④森を楽しむ体験（森のゲーム、フィールドラリー、焼芋、工作）

また、連携する団体等は次のとおり役割分担して、事業に関わった。

- 各回のはじまりの会、終りの会の進行 …… 青少年指導員
- 子どもたちの交通・防犯上の安全指導 …… 青少年指導員
- 森の活動全般の指導、物品調達・確認 …… 森林ボランティア
- 事務、連絡・調整、物品調達・管理 …… 大野台公民館

今後の課題・展望

本講座に参加した子どもたちが森の保全活動に関心を寄せ続け、森林ジュニアボランティアとして活動できる環境をつくること、更に、学年が進んでからもジュニアボランティア活動のサポーターとして後輩の育成に力を発揮できるような態勢をつくること、そしてこの活動が地域の子どもの活動として根付き、やがては自立した活動へと発展させることが今後の課題である。

企業の社会貢献推進会議

■ 連携している団体等の名称

さがみはら市民会議
相模原市・メンバーズ21
パブリックリソースセンター
日本フィランソロピー協会他

■ 代表団体の連絡先

相模原市富士見6-6-1
相模原法律事務所 内
電話 042-756-0971
FAX 042-756-0973
Eメール fwbc0876@mb.infowed.ne.jp

企業の「志」と地域の想いを繋げる
さがみはら「企業の社会貢献」推進会議

トップページ 設立趣旨 組織体制 スケジュール 事業フローチャート

さがみはら「企業の社会貢献」推進会議は、市民が自らの力で、支え合い育ちあふ豊かな市民社会をめざし、市民活動団体との連携のもと、企業の社会貢献を推進するシステム作りを研究する企業有志の会議です。期間限定で1年間の研究実践を行います。

◆代表世話人の挨拶
◆「企業の社会貢献」とは？
◆「企業の社会貢献」座談会
◆連続講演会の模様
◆入会のご案内
◆Morningリストについて
◆企業の社会貢献Q&A
◆お問い合わせ

開催迫る！
さがみはら
企業の社会貢献推進
フォーラム

バックオフ 坂本社長が熱く語ります！(写真右)

日時 平成12年2月20日午後1時30分
場所 相模原市産業会館 1F多目的ホール
人数 200人
参加費 お一人様 1000円

◆(社)日本フィランソロピー協会
◆役員連1%クラブ

ホームページ <http://u-go.to/scn-net>

事業の目的

昨今、「まちづくり」を行政のみに委ねるのではなく、市民が参加した「まちづくり」の必要性が強調されています。企業もそのステージを担うセクターのひとつとして、地域における市民活動とパートナーシップを構築していかなければならない必要を感じ、その構築を目的としています。

事業の概要

地域市民活動とどのようなパートナーシップを構築していくのかを、企業者の視点から研究し、よりよい市民社会の実現に向けた企業と市民の新しい関係を創造してゆく第一歩とすることを研究し、一年の期間限定にて昨年設立いたしました。

まずは、企業の社会貢献の概要・理念を知るための連続講演を行い会員の理解を深め、その後相模原市内における社会貢献の実践者とNPOにて活躍されている団体との意見交換会を設け、相互の理解を深めました。

社会貢献名刺も作成し、売上の一部をNPOに寄付をいたしました。そして本年、2月20日にメインフォーラムを開催いたしました。今後は企業やNPOへの協働事業への指針を目指し、提言書を作成いたします。

また、将来的には市民ファンドも検討中で、ドネーション等も行いたいと思います。



今後の課題・展望

多くの意見交換を踏まえ、NPOと企業相互の信頼関係の構築が必要で、活動の理解や人柄を知る交流の場を継続的に、かつ広域に持つこと重要となります。

また、活動の報告等を随時行うことにより、顔の見える信頼関係ができ、NPOのビジョンを示すことにより今後の活動への支援が容易になると考えられます。

さがみはら産業創造センターと大学との連携

■ 連携している団体等の名称

市内大学（女子美術大学、青山学院大学、職業能力開発総合大学校など）
市外大学（神奈川工科大学、玉川大学など）
さがみはら産業創造センター
相模原市

■ 代表団体の連絡先

(株)さがみはら産業創造センター
電話 042-770-9119

Eメール sic@sssc.co.jp
ホームページ <http://www.sssc.co.jp/>



事業の目的

地域企業と大学の連携により、研究開発の促進や技術課題の解決などによる技術力の向上、デザイン開発・販路開拓の支援などを行っています。

また、大学生・大学院生を対象に、企業経営に関する知識の習得やプロジェクトの経験を通じ、産業界で活躍できる人材の育成を図っています。

事業の概要

- ① 女子美術大学との連携による事業の実施
 - ・ ヒューマンデザイン開発支援事業の実施
- ② 職業能力開発総合大学校との連携による事業の実施
 - ・ 技術セミナーの実施
 - ・ SIC新技術創造研究会の開催
- ③ 地域企業のニーズ及び大学の研究シーズの発掘
- ④ SICビジネススクールの実施(人材教育事業)

大学生・大学院生を対象に、プロジェクトの企画・運営や起業家との交流を通じ、「ビジネスの本当の厳しさ」「チームで仕事をやり遂げる楽しさ」を体験できる事業を行っています。

今後の課題・展望

- ・地域企業と大学とのマッチングによる地域産業の活性化
- ・地域における起業家教育の広がり

首都圏南西地域産業活性化フォーラム

■ 連携している団体等の名称

首都圏南西地域産業活性化フォーラム運営委員会
(地域企業、青山学院大学、職業能力開発総合大学校、神奈川工科大学、玉川大学、
横浜銀行、八千代銀行)
関東経済産業局、神奈川県相模原商工労働センター、
神奈川県産業技術総合研究所、TAMA産業活性化協会、
相模原商工会議所、町田商工会議所、(株)さがみはら産業創造センター、
(財)相模原市産業振興財団、町田市、相模原市

■ 代表団体の連絡先

事務局：相模原市経済部産業振興課 担当 浜田、米多、濱端
電話 042-769-8237
Eメール in-pro03@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://nansei.ssz.or.jp/>

事業の目的

『首都圏南西地域産業活性化フォーラム』は、相模原・町田を中心として県央・津久井にまたがる地域の企業・大学・支援機関などが一堂に集い、有益な情報提供や交流会などを実施することにより、広域なエリアで強固なネットワークを構築し、産学連携をはじめとして様々なビジネスの機会の創出を目指して開催しております。

事業の概要

◆フォーラムでの情報提供

- ①大学・企業による産学連携の事例発表
- ②研究者による中小企業者に関心の高いテーマでの講演
- ③支援機関による各種支援情報の提供

◆産学公の交流の場の提供

- ①ポスター・パンフレット等の展示によるPRの場の提供
- ②1分間スピーチによるPRの場の提供
- ③交流会による参加者の交流・情報交換の場の提供

◆分科会

本フォーラムに参画する大学や支援機関が主体となり、より専門的な研究テーマを題材とした分科会を随時開催しています。分科会では、フォーラム参加者の興味ある様々なテーマを取り上げ、少人数の勉強会形式で実施しています。

今後の課題・展望

- ・ 産学連携の裾野を広げていく取り組みの必要性
- ・ 数多くの成功事例を生み出すことの重要性

相模原・町田大学地域連携方策研究会

■ 連携している団体等の名称

青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、桜美林大学、北里大学、国土舘大学、相模女子大学・短期大学部、職業能力開発総合大学校、女子美術大学、玉川大学、多摩美術大学、東京家政学院大学、東京工業大学、東京女学館大学、東京田中短期大学、法政大学、和光大学、和泉福祉専門学校、首都圏西部単位互換協定会、NPO法人相模原エスティアート、NPO法人さがみはら市民会議、NPO法人CCCNET、まちだNPO法人連合会、(株)さがみはら産業創造センター、相模原商工会議所、相模原市、町田市

■ 代表団体の連絡先

ホームページ <http://www.jouhou.org>

相模原市 パートナーシップ推進課

電話 042-769-9225

Eメール partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp

町田市 企画調整課

電話 042-724-2103

Eメール kikaku_m@city.machida.tokyo.jp



麻布大学 親と子の河川環境セミナー

事業の目的

大学の知的資産を大学や市民との協働により、地域に還元するとともに、市民の学習意欲に応え、市民が成果を生かすことにより、相模原・町田地域の活性化を図るため、大学と地域を結ぶコーディネート体制の仕組みとして、大学・地域連携プラットフォームの構築について検討を行っています。

事業の概要

大学と市民によるまちづくりを活性化するため、大学の公開講座や地域を題材とした研究等の情報を一元的に発信するとともに、大学教員や学生とNPO・市民の連携による学習支援やまちづくり活動のモデル事業を実施しています。

情報発信プロジェクト

①ホームページによる情報発信

より機能的で親しみの持てるサイトを目指してコンテンツやデザインの見直しを行いながら、大学等の最新情報を掲載しています。

②情報紙の発行

大学等の公開講座や学園祭情報などをテーマに年2回発行しています。

モデルプロジェクト

文部科学省生涯学習まちづくり支援事業を活用し、大学から提案された地域と大学との連携を深めるモデルプロジェクトを実施しています。

モデルプロジェクトの様子(平成15・16年度)



多摩美術大学 橋本アートタウンプロジェクト



桜美林大学 演劇体験講座



女子美術大学 アートワークショップ

市民シンポジウム：LOVE YOUR TOWN

■ 連携している団体等の名称

市民シンポジウム実行委員会

相模原市（さがみはら都市みらい研究所・パートナーシップ推進課）

■ 代表団体の連絡先

代表：市民シンポジウム実行委員会

HP：<http://sagamihara50.dip.jp/>

Eメール：loveyourtown@sagamihara50.dip.jp



上・icon-tact
左・実行委員メンバー
中・ステージ風景

事業の目的

この実行委員会は市制50周年記念事業として開催された市民シンポジウムの企画・運営を行う組織で、公募で集まった市内の大学生で構成されています。また、シンポジウムで発表を行った政策提言者も大学生です。

市民シンポジウムは、大学生の視点から見る新しい相模原のビジョンを当日、来場した市民の方々と共に考えていくことを事業の狙いとしていました。さらに、この様な進取の気性に富んだ活動が市に広がっていくことを願っています。

事業の概要

2004年12月5日に「杜のホールはしもと」で市民シンポジウム：LOVE YOUR TOWNが開催されました。

実行委員会の活動期間は約一年で、当日に向けて、提言者と市職員の方が意見交換をする学習会、当日ステージで発表する団体を決める選考会、様々な場所でのPR活動、そして下記に記されているアートイベントのワークショップ等をおこなってきました。

シンポジウムの第一部では、馬と触れ合える環境作りと題し、乗馬による身体的・精神的効果の研究から、人社会での馬の新たな役割を構築する取り組みや、多くの劇場がある相模原に着目し、舞台芸術を活用した文化の街づくりなど、麻布大学、桜美林大学、横浜国立大学、明治大学の4大学・6組から政策が提言され、会場からは積極的な意見や質問がでていました。

第二部の次世代トークセッションでは、相模原を舞台に男女2人が繰り広げるドラマの進行に併せて、相模原に関するデータなどがスクリーンに提示され、学生からの本音と会場からの意見が活発に交わされ、会場との一体感が感じられました。

また、「杜のホールはしもと」がある「ミウヰ橋本」の5階インナーガーデンでは、併設企画として「icon-tact～つながりの道標～」という参加型アートイベントを開催しました。このプロジェクトは、壁面に吊るされた大きな相模原の地図の上で、自宅と自分の好きな場所を赤い糸でつないで表示することで、市民どうしの繋がりが視覚的に表現されるといもので、美大生が中心となって行われました。

これらのシンポジウムなどの事業を通じて、相模原の現状や新しい魅力を表すことができ、当日のアンケートでも高い評価をいただきました。

今後の課題・展望

今回の実行委員会は、このシンポジウムを通した一連のイベントを終え、解散することになりますが、学生が市の事業に参加することによって、今後、まちづくりなどに一層関心を持ち、さらに活動が広がる可能性も高く、市にとっても素晴らしい人材育成の場になるといいますので、このような機会をぜひ継続して欲しいと思います。

また、当日、学生が投げかけた政策提言についても、ぜひ相模原市に反映して欲しいと思います。

市長タウンミーティング

■ 連携している団体等の名称

青山学院大学 麻布大学 和泉短期大学
桜美林大学 北里大学 相模女子大学
職業能力開発総合大学校 女子美術大学
市民シンポジウム実行委員会 相模原市



麻布大学



職業能力開発総合大学校



和泉短期大学

■ 代表団体の連絡先

さがみはら都市みらい研究所
電話 042-769-9224
Eメール surv@city.sagamihara.kanagawa.jp

パートナーシップ推進課
電話 042-769-9225
Eメール partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

事業の目的

市内にキャンパスのある8大学を会場として、各大学の企画・運営により、市長と大学生が直接、市政やまちづくりについて語り合う機会として開催されました。

事業の概要

各大学ごとに次のようなテーマで開催。(開催順)

麻布大学 4月27日(火) 14:00～17:00
テーマ 「動物・いのち・環境」
参加者 540名



桜美林大学

職業能力開発総合大学校 4月29日(木) 10:00～12:00
テーマ 「留学生の学ぶ街 さがみはら」
参加者 77名



青山学院大学

和泉短期大学 5月8日(土) 10:00～12:00
テーマ 「乳幼児の福祉・保育」
参加者 61名



女子美術大学

桜美林大学 5月8日(土) 14:00～17:00
テーマ 「新しい扉～国際と芸術文化から～」
参加者 83名



北里大学

青山学院大学 5月12日(水) 15:00～16:00
テーマ 「淵野辺のまちづくりー市長と学生との対話」
参加者 58名



相模女子大学

女子美術大学 5月13日(木) 14:30～16:30
テーマ 「美しく安全な街について」
参加者 62名

北里大学 5月15日(土) 14:00～17:00
テーマ 「健康な社会へのアプローチ」
参加者 82名

相模女子大学 5月22日(土) 10:00～12:00
テーマ 「食ー知っているようで、知らない相模原市」
参加者 59名

☆銀河祭りでのごみ分別～小学校・大学・地域～

■ 連携している団体等の名称

麻布大学環境政策学科 サークル「じ～な」
ふちのべ商店街のみなさま
淵野辺小学校の先生と児童
大野北小学校の先生と児童



■ 代表団体の連絡先

麻布大学
〒229-8501
相模原市淵野辺1丁目17番地71号

事業の目的

子どもや市民と一緒にごみ分別回収ボランティアを楽しくやることで仲良くなる。ごみ分別回収を呼びかけることで、お祭りのごみを減らし、資源をリサイクルする。子どもたちや来場者に、エコ容器やリサイクルを学ぶだけでなく、分別活動を通して何かを感じてもらう。

事業の概要

2003年7月の第15回ふちのべ銀河まつりに引き続き、2004年8月の第16回ふちのべ銀河祭りでも大学生が商店街と連携し、子どもや市民と一緒にごみ分別回収を行った。

ふちのべ銀河祭りには、麻布大学、青山学院大学、桜美林大学の学生が準備や片づけ、模擬店やパフォーマンスなどで大勢参加したが、じ～なは、エコ容器の選定やごみ分別回収を担当した。

分別回収で子どもたちは、にっこり笑って「ラベルとってください」と呼びかけて、来場者をメロメロにした。昨年も参加してくれた大野北小の6年生は、福祉団体に寄付するためにアルミ缶を分別回収した。昨年の体験が主体的な行動となった。

小学生たちは、11月の麻布大学祭でもごみ分別ボランティアとして参加した。子どもと大学生は一緒に学び、絆を深めた。

今後の課題

麻布大学9号館を拠点とし、大学全体、そして地域へと分別の意識を高めてもらうべく新たなことにチャレンジする。子どもたちとのつながりをさらに深めて、もっと交流したい。

相模原市地域福祉計画策定事業

■ 連携している団体等の名称

(事務局運営) 市保健福祉部地域福祉課、市社会福祉協議会
(計画策定委員会) 公募、市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、市自治会連合会、市民生委員児童委員協議会、市児童館連絡協議会、市私立保育園園長会、市老人クラブ連合会、市高齢者福祉施設協議会、市障害児者福祉団体連絡協議会、市障害者地域作業所等連絡協議会、市社会福祉法人経営者協議会、相模原ボランティア協会、相模原保育サポートポップくらぶ、ワーカーズ・コレクティブ・ベル、さがみはら市民会議、市市民健康づくり運動普及員連絡会、市医師会、市公立小学校校長会、市立中学校校長会、市公民館連絡協議会、相模原商工会議所、相模原青年会議所、学識経験者

■ 代表団体の連絡先

市保健福祉部地域福祉課
住 所 相模原市中央2-11-15
電 話 769-9222
FAX 759-4395
Eメール
chiikifukushi-2@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ
<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>



策定委員会主催によるタウンミーティング

事業の目的

誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して暮らしていくため、制度によるサービスを利用しながら、地域での人と人とのつながりを大切に、支えあいの関係を築いて、地域全体を明るく元気にしていく取り組みを進めるために計画を策定します。

事業の概要

平成12年の社会福祉法の改正などを受け、平成14年度から参加と協働を基調とした計画づくりに取り組み、本年3月に計画を決定する予定です。

これまで、シンポジウム、タウンミーティング、ワークショップ、地域別説明会など多様な機会を設け、多くの市民の方々の参加とご意見をいただくことができました。現在あるいは5年後10年後の生活を考えたときに不安を感じるとの声も多く頂きました。

計画では、『わたしたちで支えあう 福祉のまちをめざして』を基本理念とし、地域全体で支えあう社会の構築をめざしています。また、地域での実践を通じた地域福祉の推進が大切と考え、重点的な取り組みとして「福祉コミュニティ形成モデル事業～支えあいの地域づくり～」や「福祉活動支援システムの構築～人づくりと活動の支援～」を掲げています。

今後の課題・展望

計画の推進に向けては、一人ひとりができることから主体的に参加し行動することが必要であり、そのコーディネートなどを行う人材育成も重要です。また、市社会福祉協議会等との連携を図るとともに、計画づくりに続き、実施や評価の段階でも、市民参加とパートナーシップにより進めたいと考えています。さらに、地域全体で取り組むため、地域における福祉課題の発見・共有・解決の仕組みづくりが求められます。

県道54号（相模原・愛川）における TDM（交通需要マネジメント）推進事業

■ 連携している団体等の名称

都市交通計画課
都市計画課
土木計画課
パートナーシップ推進課
NPO法人 東京ランポ



■ 代表団体の連絡先

相模原市 都市交通計画課
電話 042-769-8249

Eメール toshikoutsu@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ <http://info.city.sagamihara.kanagawa.jp/Files/1/801202/html/top1.htm>

事業の目的

県道54号（相模原・愛川）は通勤時間帯の著しい渋滞により、道路機能の低下、住宅街や通学路が抜け道として利用されることによる交通安全の問題、自動車走行速度低下による大気汚染の悪化など、多くの問題を抱えている。

このため、当該道路におけるTDM（交通需要マネジメント）の実現に向け、道路利用者や周辺住民等からなるワークショップを設置し、渋滞緩和に向けた取り組みを進めている。

事業の概要

平成13年度に策定された「相模原市総合都市交通計画」の中の「TDM基本計画」に基づき、当該道路について具体的な検討を進めており、平成15・16年度においては、市民参画の「ワークショップ」の手法により、道路利用者や周辺住民等の協力を得ながら、当該道路にふさわしいTDM施策の検討を行っている。

また、立案された施策については、その効果や実現性を高めるため、学識経験者や国土交通省、神奈川県などからなる「TDM推進委員会」を設置し、「ワークショップ」と連携を図りながら検討を進めている。

今後の課題・展望

ワークショップなどにより抽出されたTDM施策のいくつかについて、その効果や実現性を確認するために、平成17年度に「社会実験」を予定している。

「社会実験」で得られた結果については、今後、愛川線や他の課題地区においてTDM施策を推進していく際のデータとして活用していく。

旭町街区公園ワークショップ

■ 連携している団体等の名称

- ・旭自治会
- ・女子美術大学
- ・特定非営利活動法人 東京ランポ

■ 代表団体の連絡先

旭自治会 中村 洋子 会長



事業の目的

街区公園は、周辺にお住まいの方々の憩やコミュニケーションの場となることから、整備計画の策定については、地域の方々が中心となって住民参加によるワークショップ形式で行い、利用しやすく愛着のある公園整備を行う。

事業の概要

ワークショップ形式による計画づくりを行うにあたり、地元自治会や子供会の皆様等に協力をお願いして、ワークショップのメンバーを募集しました。公園整備は平成18年度に行われるため、平成16年度は、コンセプトづくり、平成17年度は整備計画の策定を行うこととして進めています。

コンセプトづくりは平成16年2月の第1回ワークショップから始まり、平成16年9月の第8回までにまとめることができました。ワークショップでは、近くの公園探検や、ネイチャーゲームで整備する公園の自然の再発見などを行いました。その結果、地面と樹木は今のままで、自然を生かした公園がよいということになりました。

今後は平成17年4月から約半年間でコンセプトを具体化する整備計画案を考えていく予定です。

課題・展望

コンセプトづくりの段階では、旭自治会長にファシリテーター役をはじめ、当日の準備から資料作成・まとめまで全ての作業をお願いしましたが、今後の整備計画策定では、資料準備やまとめの作業量が多くなるため、ワークショップの組織化を図り、メンバーで役割分担を行うなど円滑な運営を図っていきたいと考えています。

大野南地区こどもセンターこどもワークショップ

■ 連携している団体等の名称

大野南地区子ども会連合会
大野南地区こどもセンターこどもワークショップ

■ 代表団体の連絡先

相模原市 保健福祉部 子育て支援課
電話 042-769-9227

Eメール kosodate@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>



事業の目的

新たに建設される大野南地区こどもセンターで、どのような遊び方ができるか、どのような遊び道具が必要かなどについて、子どもたちが、他地域のこどもセンターの見学などを通して、アイデアを発展させ、自分たちの意見をまとめていく場とする。小学生を中心に、中学生・高校生の参加も募っている。

事業の概要

- ①他地域のこどもセンターの見学(相武台こどもセンター、町田ばぁんなど)
- ②こどもセンター建設予定地を調べる(施設の環境とイメージを体験する)
- ③遊具などの選定案の作成(どのような遊具が必要かを話し合う)
- ④建設委員会との交流(どのようなこどもセンターにしたいのかなどについて意見交換する)

今後の課題・展望

こどもワークショップの企画・運営は、地域の子ども会育成会関係者や女子美術大学の学生が中心となっ
て行っているが、今後、中学生や高校生を含めた子どもたちも企画・運営に参加してもらい、地域の子ども
たちが広くこどもセンターを利用できるような環境を整えていきたい。



まちなみウォッチング

■ 連携している団体等の名称

■ 代表団体の連絡先

相模原市 建築部 建築総務課

Eメール ke-soumu@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>



事業の目的

市民一人一人が、景観を市民共有の財産として認識していけるようなきっかけとして、まちを見て歩き、まちの資源を知り、まちに親しみを持ってもらうことを目的として行っています。

事業の概要

公募により集まった市民の方々が、4日間の日程で、簡単なガイダンスの後グループに分かれまち歩きをしながら、テーマに基づいてまちの魅力や問題点を発見していき、自らが撮った写真やメモを基に「まちのイメージ」を参加者自身の手でまとめていきます。

年1回の実施をしており、これまでに4回、橋本駅周辺、相模大野駅周辺、相模原・矢部駅周辺、上溝周辺においてまち歩きを行ってきました。

参加者がまとめた「まちのイメージ」は毎回ニュースとして発行しており、また昨年行われた景観シンポジウムの会場において、その展示を行いました。

今後の課題・展望

より多くの参加者、そして幅広い年齢層の参加者が得られるよう、日程や内容などの検討をしているとともに、市民と景観づくりとの接点として、さらに活用していくことを考えています。



道保川を愛する会(街美化アダプト制度)

■ 連携している団体等の名称

道保川を愛する会

■ 代表団体の連絡先

世話人代表 小山直次
相模原市下溝1416-1
電話 042-778-3699



事業の目的

都市化が進む市内で、横山丘陵の段丘から流れ出る湧水を主体に形成された道保川についての、市河川整備課の多自然型川づくりという自然を生かした工事方法に感動し、「自然環境を大切に守り皆んなの憩いの場として子供や孫たちの遊ぶ場所を残していこう」と「道保川を愛する会」が発足した。

事業の概要

平成15年の夏頃から、地域住民の有志の間で道保川をボランティアにより清掃、美化活動を行う話しが進み、平成16年4月に会の名称を「道保川を愛する会」とし、市のパートナーシップ推進課及び河川整備課の職員と打ち合わせを重ね、会の役員選出、会の規約、年間活動予定、予算等を決め、市と「街美化アダプト制度」の合意書を締結しました。

最初の会の活動として3月に財団法人相模原みどりの協会支援により「花のまちづくり運動」として道保川の河川敷等ヘシバザクラ等の植栽を実施しました。

平成16年4月からは、アダプトの合意書にもとづき、1ヶ月2回(第2・4土曜日、午前8時より2時間程度)の清掃・美化活動を行っています。主に草花の植栽(会員の自宅で育てた草花)や雑草の刈り払いや外来種(オオブタクサ・セイダカアワダチソウ)の除去や河川内の空き缶やゴミの収集等を中心に行っています。

今後の課題

道保川に昔から自生している植物や、水生植物が育つように自然環境を守り、子供達の自然観察の学習や、魚取りなどの遊びの場所として、又夏はホタルが舞い四季折々の花が咲き、地域住民の憩いの場所となるように清掃・美化活動を継続して進めていきたいと思っています。

ふちのベピース・ガーデン(街美化アダプト制度)

■ 連携している団体等の名称

相模原ロータリークラブ

■ 代表団体の連絡先

相模原ローターアクトクラブ事務局

〒229-1122相模原市中央3-12-3

Tel : 042-753-2020

Fax : 042-753-2642

Eメール mayuzou48@hotmail.com

ホームページ <http://www.sagami.sunrise.co.jp/~srac/>



事業の目的

子供たちは外に出て、土に触れる機会が極めて少なくなりました。そこで、身近な公園に花壇を作りました。土に触れ、植物が育つ楽しみを経験し、公園の大切さや楽しさを共有する。また、市民が自分たちの手で地域や自然を守っていくきっかけを作ります。

事業の概要

相模原市のパートナーシップ、アダプト制度を利用し、子供を中心とした市民による公園作りを計画。昨年の9月12日に淵野辺公園に花壇を作りました。また、今年1月30日に植替えをしました。5月ごろに植替えを予定。花の購入には、(財)相模原市みどりの協会の助成をいただきました。

第1回目は事前に公園の周辺の住宅や公園に来ている人にチラシを配ったり、広報さがみはらにお知らせを載せたりした結果、一般の参加者は81名でした。5m×7mの花壇を作りました。

花はインパチエンスなど3種類を約1,000株。事前に、花壇の枠を作り地面を耕しておきました。当日は、一般参加者は9時に集合して1時間ほどで植え終わりました。参加した子供たちはとても楽しかったと言っていました。1月の植替えは、前回の参加者に呼びかけて行いました。パンジーなど3種類の花を植え、12名の方が参加しました。

今後の課題・展望

- ①花を長く持たせること。花によってはすぐに枯れてします。
- ②散水設備がなく、水遣りが大変。現状は花壇から公園内の離れた所からポリタンクで水を運んでいる。
- ③定期的な植替えの資金・参加者集め。
- ④この事業をきっかけに市民が他の場所でも緑豊かな街づくりをしていくようにすること。

SOIN 花の広場 (街美化アダプト制度)

■ 連携している団体等の名称

SOINグリーンクラブ

■ 代表団体の連絡先

相模原市印刷協同組合
Tel 042-776-6100
Fax 042-776-5656

Eメール info@soin.or.jp
ホームページ <http://www.soin.or.jp>



事業の目的

SOINグリーンクラブの母体である相模原市印刷協同組合(代表 重久正次・会員26社)は平成15年にISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得、環境事業を手がける中で緑化事業に取り組み、自ら公園を管理する事で緑を増やし、また一般の市民の方々にも街美化を啓発する目的で行っています。

事業の概要

相模川自然の村公園の一画に「花の広場」という名称で花壇を管理しています。「花の広場」では毎年冬から春の花を秋に、夏から秋の花は春に植え付け、年2回色とりどりの花を咲かせるようにしています。植え付けの前には雑草や石を取り除く作業、整地、肥料撒きを2～3日(休日の午前中参加者は10名程度)かけて行い、花の植え付け当日は会員家族も含めて2～30名ほどが参加して、楽しみながらの作業です。

その後は毎月1～2回、担当割り当て方式で草取りや水撒きを行います。大変なのは夏の作業で、月2回では足りず毎週のように誰かしらが出ています。

当初は「花の広場」の管理作業に会員の参加者があまり少ないと継続が困難になると懸念されましたが、家族も参加する事により家族サービス、また、外気や土に触れることで健康も兼ねた1日になる為その心配も払拭され、今後も楽しく活動をしていきたいと思えます。

今後の課題・展望

この事業を当団体以外に会報、ポスター等を作成してPRし、ひとつでも多くの団体や市民の方々に参加していただき、相模原の荒れた公園や道路を花いっぱい飾り、相模原市が日本一きれいな街になる様、小さな力ではありますがその礎になりたいと思えます。

相模大野中央公園内の花壇(街美化アダプト制度)

■ 連携している団体等の名称

相模原けやきライオンズクラブ

■ 代表団体の連絡先

相模原けやきライオンズクラブ
会長 大久保真介
相模原市上鶴間本町4-48-8
Tel : 042-854-1141
Fax : 042-854-1171



Eメール info@keyaki-lc.gr.jp

ホームページ <http://www.keyaki-lc.gr.jp>

事業の目的

相模大野中央公園の環境保全と美化に努め、訪れる市民の皆様にも愛される花壇を目指し、「花いっぱい運動」を展開する。また、自分たちと一般市民が分担し種から苗木を育て、その苗木を花壇に植えるのこもった花植活動を展開する。即ちライオンズクラブと市民との協働活動を目的とする。

事業の概要

1. 相模大野中央公園内に2カ所の花壇を造園した(平成16年11月27日実行)
2. 花壇の名前と大きさ
円形花壇.....樹林(直径3m)
長方形花壇.....春夏秋冬(縦2m×横5m)
3. 花壇の基礎 枕木で廻りを囲む
4. 花の種類と使用数量

①ノースポール	70個	②パンジー	285個
③ハボタン	100個	④ジュリア	65個
⑤ピオラ	30個		

今後の課題・展望

今回はクラブと下部組織である「ライオメイト」が協力して実施した。規模的にはまだ小さくアダプトとしては物足りないが初めての活動としては成功と言える。アフターフォロー、今後の花植え等、細かい部分で検討の余地もあるが、この経験を生かし次には更なる高いアダプト活動に挑戦したい。例えば、公園内の全ての花壇の花植え活動、公園の清掃活動等はライオメイトを含めた市民との協働で活動する絶好の事業であり、みんなで大きな感動を体験できるものと考えています。

ITを活用した都市型観光情報の受発信事業 相模原市観光協会ホームページ

■ 連携している団体等の名称

相模原市観光協会
相模原市

■ 代表団体の連絡先

<事務局>

相模原市商業観光課
相模原市中央2-11-15
電話 042-769-8236
FAX 042-754-1064



Eメール info@e-sagamihara.com ホームページ <http://www.e-sagamihara.com>

事業の目的

相模原市の観光振興の指針である「相模原市観光振興計画」(平成14年3月策定)では、「都市型観光のネットワークづくり」を推進するため、観光情報のPR手法のひとつとして、ITを活用した都市型観光情報の受発信事業を掲げています。これに基づき、相模原市観光協会では、民間事業者との連携をはかり、また、受信者に実際にウォーキングコースを歩いていただくなど、パートナーシップにより、「相模原市観光協会ホームページいいーさがみはら(e-sagamihara)」をつくりました。

事業の概要

「いいーさがみはら」は、地区の観光協会、商店街、マスコミ、旅行社等の観光協会会員に、主婦、インターンシップの学生らに加わっていただき17名のメンバーでワーキンググループを作り、受信者、発信者、製作者のそれぞれの側の立場からの検討を行いました。8回の検討会議を重ね、ホームページの骨格や内容、発信方法等を決めました。

○トップページ、祭り・イベント、おすすめスポット・情報、四季折々、気軽にウォーキング、我がまちオンライン、相模原の特産物、相模原でお店探し、相模原リンクの9部門で構成。

○平成16年(2004年)3月15日開設

○ヒット数 約61,000件(平成17年1月末現在)

<特徴>

- (1)「観光協会ニュース」は、花火大会開催の有無等の情報やイベントの当日情報など、その日の情報をその場でリアルタイムに更新。
- (2)相模原の季節感ある自然風景、身近な花の名所・イベントなど旬の情報のほか、市内での新たな観光資源情報など市民からの情報を積極的に受け入れ、都市そのものをテーマパークにみたてた新たな都市型観光資源の発掘につとめています。
- (3)アテネ五輪男子平泳ぎ金メダルの北島康介選手らも出場し、さがみはらグリーンプールで9月に行われたインカレ(日本学生選手権水泳競技大会)なども都市型観光資源ととらえ、積極的にPRしました。

「いいーさがみはら」はこれからも相模原の魅力をタイムリー発信していきます！！

皆様のHPにもリンクを張ってご活用ください。バナーはこちらで →



相模原市自然環境観察員事業

■ 連携している団体等の名称

相模原市 環境対策課

■ 代表団体の連絡先

相模原市 環境対策課

電話 042-769-8240

FAX 042-753-9413

Eメール kankyoutaisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp



事業の目的

自然環境観察員制度は、相模原の身近な自然に目を向け、市民と行政が一体となって自然環境を調査し、自然への関心を高めるとともに環境の現状と変化を捉えることを目的としています。また、調査結果を自然監視・保全の基礎資料として継続的に集積しています。

事業の概要

相模原の自然環境調査のため毎年3月に翌年度活動していただく自然環境観察員を市民の皆さんから募集しています。

調査は、年2回、全市域を対象に地域の自然をはかるものさしとなる「指標動植物種」を中心に実施しています。

また、自然環境に関する知識の向上を目的に自然の動植物に関する環境セミナー、植物や湧水などの専門的な調査、環境活動の学習会などを開催しています。

調査の結果は、自然環境基礎調査のデータとして蓄積するとともに、指標動植物種を更新する際の基礎データとして活用します。

今後の課題・展望

自然環境の調査は、継続的に実施することが大切です。そこで、市内全域の調査を10テーマ（毎年2テーマ）に定め、5年ごとの生息、生育状況の調査を続けます。また、調査をはじめ自然環境活動の知識とノウハウを身に付ける学習会の開催、ワークショップなど市民と行政の協働で進めていきます。

みどりのボランティア育成・支援事業

■ 連携している団体等の名称

財団法人 相模原市みどりの協会

<所在地・連絡先>

相模原市麻溝台2,317番地

電話 042(777)2860

<http://www.sagamihara-green.or.jp/>



事業の目的

市の保全緑地等の維持管理や観察・調査などを市民ボランティアに委ねるとともに、これを積極的に育成・支援することにより、市民主体の森づくりを推進し、行政と市民ボランティアの連携による「市民参加型みどりのまちづくり」と緑地等の保全・活用の充実に努めるものです。

事業の概要

財団法人相模原市みどりの協会を通じて、緑地保全・緑化推進に取り組む市民ボランティアの育成・支援を行っています。

<主な育成・支援内容>

相模原麻溝公園、相模原北公園などを中心に、アジサイの植栽や剪定を行う「アジサイボランティア」、バラの剪定・施肥など相模原北公園の花の管理を行う「相模原北公園花のボランティア」、公園に植栽された樹木の樹種調査や樹名板の設置を行う「樹木の探偵団」、クレマチスの剪定、誘引などの管理を行う「相模原クレマチスの会」などに対して技術指導や材料の提供を行っているほか、『木もれびの森』や『ふれあいの森』など市内の緑地で保全活動に取り組む市民グループに対して、機材の貸し出し、緑地保全に係る情報提供や講習会の開催など、活動支援をしています。

今後の課題・展望

木もれびの森などの貴重な樹林環境を将来にわたって良好に保全するためには、市民参加によるみどりのまちづくりを更に推進する必要があります。

今後は、育成・支援団体のネットワーク化など、市民ボランティア間の相互連携を図り、より多くの市民の方に参加していただけるよう努めていきます。

自然体験活動リーダー養成講座

(川のボランティア育成事業)

■ 連携している団体等の名称

■ 代表団体の連絡先

相模原市役所 環境保全部 みどり対策課
〒229-8611 相模原市中央2-11-15
電話 042-769-8242



事業の目的

川などをフィールドにしたボランティアの育成を目的として、自然体験活動リーダー(コーン・リーダー)養成講座を開催しています。この講座を修了すると「自然体験活動リーダー」の資格が取得できます。

事業の概要

自然体験活動リーダーとは・・・

野外体験、環境学習、アウトドア・スポーツなどの自然体験活動のリーダーで、自然体験活動協議会(愛称コーン、NPO法人)が認定します。コーンは、野鳥の会やボーイスカウト協会、キャンプ協会など260もの団体が加入しています。

プログラム・メニュー(講義と実習)

- 自然を知ろう
- 自然体験活動の指導法
- 安全対策
- 人、社会、文化との関わり
- プログラムづくりの基礎など



募集内容(平成16年度に実施した内容)

対象 18歳以上の方で、講座修了後に継続してボランティア活動や自然体験活動をされる方
日時 12月11日(土)、12日(日)、19日(日)の3日間。9時から17時まで(部分参加は不可)
会場 相模川ふれあい科学館(講義)・周辺河原(実習)
申込 みどり対策課へ、直接電話で申し込み。(12月3日まで。定員20名)
参加費 1,000円(テキスト代等)

学校支援ボランティア活動の推進事業

◎学校支援ボランティア活動として、市内近隣10大学の学生による「学生ボランティア事業」を展開しています。

■ 連携している団体等の名称

16年度から実施の「学生ボランティア事業」で連携している大学
麻布大学・青山学院大学・北里大学
女子美術大学・和泉短期大学・玉川大学
桜美林大学・相模女子大学
大妻女子大学・職業能力開発総合大学校



■ 代表団体の連絡先

相模原市教育委員会
学校教育部指導課

Eメール shidouka@sagamihara-kng.ed.jp

ホームページ <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouiku/>

事業の目的

学習指導要領の趣旨を生かし、また、相模原市教育改革懇談会の提言を受けて、多様な教育活動や地域に開かれた学校づくりを進めるために、学校教育への外部協力者の参画を円滑に行っていくことを目的としています。

事業の概要

平成16年度から、市内近隣の大学と連携して、小・中学校における学生ボランティアの募集と応募が、円滑に行われるための「学生ボランティア事業」を実施しています。

これは、教育委員会のホームページに「学校支援情報システム」を設置し、小・中学校からの学生ボランティア募集情報を大学及び一般に公開しているものです。

このことにより、授業への支援ばかりでなく休み時間の子どもたちとのふれあいや、個別に配慮が望まれる子どもたちへの支援など、様々な教育活動に学生ボランティアの参加をいただいています。

課題・展望

今後は、学生ボランティアの実践を通して「小中学校・大学連携」をさらに深めるとともに、各大学の特色を生かした連携のあり方を探っていきたいと考えております。また、地域のボランティアに係る運営システムの整備・充実、および円滑に推進するための諸条件の整備にも努めていきたいと思っております。

相模大野図書館 図書館アドバイザー事業

■ 連携している団体等の名称

■ 代表団体の連絡先

相模原市 生涯学習部 相模大野図書館
電話 042-749-2244

Eメール ono-tosyo@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp>



事業の目的

この事業は、図書館利用者からのご意見やご提案を受け、利用者との協働による図書館運営を推進することを目的に、市長の推奨するパートナーシップ推進事業の一環として、平成14年度から相模大野図書館で試行的に実施しているものです。

事業の概要

平成14年11月から12月にかけて館内掲示と図書館報により公募を行い応募された7名の方に図書館長から委嘱を行いました。

会議は、平成14年度から平成15年度にかけて合計4回開催され図書館内でのマナーやパソコンなどの利用に関すること、リクエスト本の対応や購入、フロアの構成や将来の図書館のあり方等に至るまで、様々な課題について話し合われました。当初は、アドバイザーの方々からの積極的な問題提起を期待したものの、初めての試みであったこともあって、実際には懸案になっている事項などを図書館側から提示し、それに対して利用者としての立場からご意見をいただく形となりました。このアドバイザー会議を受けて、持込みパソコンを利用できるコーナーを一般席と別に設置したり、喫煙場所を移動するなどの改善を行っております。

この事業は、今年度も継続して行われ、アドバイザーの方々の貴重なご意見やご提言をもとに、今後とも使いやすく喜んでいただける図書館運営を心がけてまいります。

今後の課題・展望

- 1 アドバイザー人数の増員（初年度7名・次年度5名）
公募方法の改善
- 2 アドバイザーOBの活用
継続的な図書館との関わりの場の設置（アドバイザー経験者）

橋本図書館 ビジネス支援サービス

■ 連携している団体等の名称

特定非営利活動法人 相模原エスティアート
相模原市（橋本図書館）

■ 連絡先

橋本図書館
〒229-1103
相模原市橋本3-28-1
mewe橋本6F
電話 042-770-6600



Eメール hashimoto-tosyo@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/>

事業の目的

起業家の自立や新事業の創出を促し、地域経済の活性化を図るため、橋本図書館でビジネスに関する情報提供を行うとともに、創業等、ビジネスに関する相談を実施しています。

事業の概要

1. ビジネス支援コーナーの設置
 - ・ ビジネス関連図書、雑誌の閲覧・貸出
 - ・ 統計資料・ビジネス関連調査資料の閲覧
 - ・ 起業情報や起業家支援の資料やパンフレット等の配布
2. 有料データベースによる情報提供
 - ・ 専用端末から日経各紙のビジネス情報(日経テレコン21の閲覧)※1時間無料で利用できます。
3. ビジネスに関するレファレンスの実施
 - ・ 図書館職員による調べもののお手伝い
4. ビジネスカウンセリングの実施

「自分で事業を始めたいけど、誰か相談にのって欲しい。」、「自分の能力を活かして地域のためになることをしたいけどどうすればいい？」など、ビジネスや地域活動に関する事をお気軽にご相談ください。経験豊富なビジネス相談員があなたの疑問・悩みについて一緒に考えます。

ビジネスカウンセリングの相談員は、特定非営利活動法人 相模原エスティアートの方々です。様々な分野の経験豊富な相談員さんが待機しており、ご相談の内容に応じて得意分野の相談員さんが対応してくれます。

 - ・ 原則、毎月第1・3木曜日に実施(予約制、申込窓口は橋本図書館調べものコーナーです)

相模原市文化財調査・普及員制度

■ 連携している団体等の名称

相模原市文化財調査・普及員
(現在の登録者 43名)
相模原市教育委員会文化財保護室



文化財パトロールの様子

■ 代表団体の連絡先

相模原市教育委員会文化財保護室
〒229-8611
相模原市中央2-11-15
電話 042-769-8371
FAX 042-754-7990
Eメール
bunkazai@city.sagamihara.kanagawa.jp

スタッフとして参加した
古民家園事業
正月飾り作り



事業の目的

文化財調査・普及員制度は行政と市民とのパートナーシップに基づいて、文化財の保存と活用を図るために導入されました。

この制度の導入により、文化財に関心のある市民に活躍の場を提供するとともに、行政においても地域の文化財の細かい状況把握が可能になるなどの効果が期待できます。

事業の概要

文化財調査・普及員事業の主な活動は文化財パトロールと教育委員会事業へのスタッフとしての参加で、平成15年度に全10回の講習会と推薦会による推薦を経て、現在43名の登録者が活動しています。

文化財パトロールは5つの地域班に分かれ、地域班ごと自主的に打合せやフィールドワークを実施し、文化財マップ作りの作成に取り組んでいます。各地域班には運営担当と広報担当があり、定期的に文化財保護室と打合せを行い、連携を図っています。

教育委員会事業へのスタッフとしての参加は遺跡見学会、民俗芸能大会、古民家園事業などにおいて、受付、記録、講師などの助手として活躍し、文化財普及活動の一翼を担っています。

その他、文化財調査・普及員機関誌「さねさし」(“さねさし”は相模国の枕詞)を発行したり、文化財ボランティアとして資質向上を図るため、発掘調査講習会や文化財ボランティアについての研修を実施しました。

今後の課題・展望

平成17年度は地域班に加え分野別班を創設し、文化財調査・普及員活動を充実させていきます。さらに、普及事業担当を設けて、古民家園などを拠点とした文化財調査・普及員の企画・運営による事業を検討し、より多くの市民に文化財及び文化財調査・普及員の活動を普及できる事業を展開したいと考えています。

また、平成17年度は現在の登録者の少ない地域を中心に第2期募集を行い、どの地域においても身近に文化財調査・普及員が存在する体制を整えていく予定です。

いきいきフォーラム

■ 連携している団体等の名称

さがみはら男女共同参画推進員

■ 代表団体の連絡先

相模原市 企画部 男女共同参画課
電話 042-769-8205

Eメール danjo@city.sagamihara.kanagawa.jp



事業の目的

望ましい男女共同参画の実現に向け、男女共同参画に関する市民意識の高揚を図る。

事業の概要

講師を招き、男女共同参画に関する講演会を開催した。

事業の企画・当日の運営については、公募市民の「さがみはら男女共同参画推進員」との協働により実施した。

(内容)

- ・邦楽コンサート 金子 朋沐枝さん、坪井 智子さん(お箏)
- ・講演会「女と男の素敵な関係」 講師 広瀬 久美子さん
- ・参加者数 246名

今後の課題・展望

「さがみはら男女共同参画推進員」の任期が2年であり、さらなる男女共同参画の普及・啓発のために、後任の育成、及び、人材の確保をする必要がある。

市民平和のつどい

■ 連携している団体等の名称

「市民平和のつどい」実行委員会

■ 代表団体の連絡先

事務局：相模原市企画部渉外課

電話：042-769-8207

Eメール shogaika@city.sagamihara.kanagawa.jp



事業の目的

「核兵器廃絶平和都市宣言」の趣旨に基づく平和思想の普及啓発を図るため、「市民平和のつどい」を実施する。

事業の概要

- 1 「市民平和フォーラム」平成16年11月7日(日)あじさい会館
 - (1) 基調講演:テーマ「中東紛争と石油」講演者 水口 章(敬愛大学助教授)
 - (2) パネルディスカッション:テーマ「平和な世界のために私たちに出来ることは何か」
コーディネーター:福嶋輝彦(桜美林大学教授)
パネリスト:鎌仲ひとみ(映画監督)、幸田シャーマン(元ニュースキャスター)
片山博文(桜美林大学助教授)、佐藤一子(NPO法人理事長)
水口 章(敬愛大学国際学部助教授)
- 2 写真展 平成16年11月6日(土)～14日(日)相模大野ギャラリー
長倉洋海氏の「ヘスースとフランシスコ」(30点)を展示
- 3 映画「ヒバクシャ 世界の終わりに」平成16年11月7日(日)あじさい会館
- 4 パネル巡回展 平成16年11月6日(土)～7日(日)あじさい会館ロビー他
- 5 被爆者・戦争体験者のおはなし 平成16年11月14日(日)東林公民館他

今後の課題・展望

「市民平和のつどい」実施後の実行委員会で、事業への市民参加が少なかった点が反省点としてあげられた。事業の市民周知については、広報さがみほらやポスター、チラシの他、テレビやFM放送、タウン紙など、考えられる媒体を活用した。

また、実行委員も市民団体や学校等への呼びかけを行うなど努力したが、結果的に参加者が少なかった。効果的な市民周知方法が今後の課題である。

相模原市民まつり

■ 連携している団体等の名称

相模原市民まつり実行委員会

■ 代表団体の連絡先

《実行委員会事務局》
相模原市役所 商業観光課
〒229-8611
相模原市中央2-11-15
電話 042-769-8236



Eメール shokan@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://city.sagamihara.kanagawa.jp>

事業の目的

メインテーマを「62万人のふるさとづくり」、サブテーマを「人・もの・自然、すべての共生を求めて」とし、相模原をふるさとと思えるような、さまざまな人たちが交流する場・機会を創出するため、市民参加による手づくりのまつりを開催します。

事業の概要

市民の手によるまつりを実現するため市内の公共的団体、市民団体等の代表からなる実行委員会と、その実働部隊である3つの部会(行事、会場、交通)を組織し、事業の企画、準備から当日の運営までを担当しています。その中でも、参加団体から1名づつ行事運営従事者を募り、当日のステージやパレードの進行、会場内のゴミ処理などの業務にあたっています。

また、市民サポーターを募集し、休憩所の運営・管理などに携わっていただいたり、市内の大学生を中心に構成される「ヤング実行委員会」によって「夜桜まつり」が企画・運営されています。

開催日	平成17年4月2日(土)・3日(日)
歩行者天国	2日(土) 13:00~17:30 17:30~20:00(夜桜まつり) 3日(日) 10:00~17:30
会場	国道16号線から市道下九沢淵野辺線までの市役所さくら通りを歩行者天国にして主会場とするほか、市民会館、あじさい会館、けやき会館、総合学習センター、西門買物公園通り(グリーンプラザ)等で催し物を行う。
主催	相模原市民まつり実行委員会 *夜桜まつりは、相模原市民まつりヤング実行委員会が主管。
催し物	パレード、展示、ステージ・イベント、絵画・写真展、模擬店・露店

今後の課題・展望

- ◎協賛企業やスポンサー事業導入の検討
- ◎環境対策(ゴミを出さないまつりのあり方の検討)
- ◎参加団体増加への対応(会場の拡大等)
- ◎相模原らしさの創出・演出の検討
- ◎市民まつりのあり方・将来像の検討

市民との共同研究及び市民の自主研究支援

■ 連携している団体等の名称

公募による市民研究員（個人）

■ 代表団体の連絡先

個人で市民研究員として参加しているため、代表はおりません。

さがみはら都市みらい研究所
住 所 相模原市中央2-11-15
電 話 769-9224



Eメール surv@city.sagamihara.kanagawa.jp
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/profile/survpage/index.htm>

事業の目的

地方分権時代の自己決定・自己責任に基づく自治体運営をより一層進めるために、長期的、先進的な課題について、市民、学識経験者、NPOなど多様な主体の英知を結集して、地域特性に即した政策研究を行っています。

事業の概要

研究には、本市が抱える全庁的、先駆的、中長期的な課題について、市民や学識経験者、行政職員などと共同で研究をする「共同研究」と、まちづくりに関する公共的課題に対し、問題意識をもつ市民自らが研究を行う「自主研究」があります。

15・16年度の共同研究は、大都市としてのスケールメリットを生かしつつ、地域における暮らしやすいまちを市民とともに創造するための「都市内分権」について、公募の市民研究員5名、政策アドバイザー1名、公募職員を加えた総勢17名体制で研究を行いました。

自主研究は、公募の市民研究員5名が、まちづくりに関して感じていることをテーマ（「都市環境空間形成の基本的方向と実現化方策の研究」「地域情報ネットワークの構想」「相模原市の樹林と保全計画」「学校支援と『地域教育力』の向上の可能性を探る」「バリアフリー道路の研究」）に研究を行い、研究所では市民研究員に対し、情報収集や関係課との連絡調整等の研究支援活動を行いました。

今後の課題・展望

研究成果について施策反映性を高めていくために、研究課題・地域課題の共有化を図りながら、市民研究員研究の支援体制を整えていきます。

さがみはら市民活動サポートセンター

■ 連携している団体等の名称

特定非営利活動法人さがみはら市民会議
相模原市（パートナーシップ推進課）

■ 代表団体の連絡先

さがみはら市民活動サポートセンター
〒229-0036
相模原市富士見6-6-23 けやき会館3階
電話・FAX 042-755-5790

Eメール sagami.saposen@iris.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.jf.ws27.arena.ne.jp>



さぼせんフェスタ'04での活動発表

事業の目的

さがみはら市民活動サポートセンターは、市民活動に関わる多くの団体や個人が手を携え、育ち合うネットワークづくりを進め、市民自身の責任を果たしながらまちづくりを行う、そんな新しい市民社会の実現に向けて、市民活動を進めている団体や、これから行おうとしている方々を支援することを目的としています。

事業の概要

さがみはら市民活動サポートセンターは、公設市民運営の施設で、公募により選考された特定非営利活動法人さがみはら市民会議が相模原市からの委託を受けて、管理・運営しています。

センターでは、次のような設備の利用ができるほか、市民活動の進め方や団体の情報などの相談を受けています。

会議室 25名程度の会議や研修に利用できます。2ヶ月前から予約できます。

オープンスペース ミーティングなどに予約なしで利用できるスペースです。

作業コーナー コピー機・印刷機・ラミネーター（有料）を設置しています。

情報掲示板 市民活動団体のポスターやちらし等を掲示できます。

開館時間 午前9時～午後10時（年末年始、定期清掃日などは休館）

このほか、市民活動講座など、市民活動を行う方々を対象とした講座などを実施するとともに、利用者懇談会などを通じて、市民活動のネットワークづくりを進めています。



NPO
入門
講座



男女共同参画推進センター(ソレイユさがみ)

■ 連携している団体等の名称

特定非営利活動法人
男女共同参画さがみはら

相模原市（男女共同参画課）

■ 代表団体の連絡先

代表理事 石川壽々子



事業の目的

男女共同参画を推進する活動拠点である「男女共同参画推進センター(ソレイユさがみ)」について、市民参画による自主的、主体的な運営と専門的、継続的な事業展開を充実するため、管理・運営の委託を推進する。

事業の概要

委託化にあたっては、「ソレイユさがみの管理運営を考える会」の開催やセンターの登録団体への説明会などを行い、市民団体の状況等を見ながら進めた。この間、地方自治法が改正されたため、指定管理者制度を導入することとした。

指定にあたっては、公募を行い、選考、議会の議決を経て、「特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら」を指定した。指定管理者は、ソレイユさがみ事業体系に基づき、次の業務を行う。

- ・ソレイユさがみの施設の利用の承認等に関する業務
- ・男女共同参画を推進するための事業の実施に関する業務
講座等の開催、情報コーナーの運営、市民団体の活動支援
- ・施設等の維持管理に関する業務

今後の課題・展望

今回の指定の期間は2年間であり、次期の指定に向けて、委託化による効果などの評価指標等を検討する必要がある。

精神障害者地域生活支援センター カミング

■ 連携している団体等の名称

特定非営利活動法人 NPOかむ
地域生活支援センター カミング

■ 代表団体の連絡先

所在地 相模原市淵野辺4-15-6 ヴィーナズ2階
電話 042(759)5117
Eメール comming@nifty.com
ホームページ <http://homepage3.nifty.com/coming/index.htm>

事業の目的

地域で生活する精神障害者の日常生活支援、相談、地域交流活動の促進等を行なうことを通じて障害者の自立を支援し、社会参加を図る。



スタッフミーティング



テーブル、ソファが備えられた家庭的な雰囲気のセンター内

事業の概要

センター内には精神障害者が地域生活をしていく上での悩みや不安の解消のための相談窓口やキッチン・風呂・洗濯機を完備しており、利用者が地域で自立して生活できるよう幅広く支援しています。

また、自由にくつろげるフリースペースやパソコンコーナー、車いす用のトイレも設け、利用者が安心して過ごせる憩いの場所となっています。

- ◆相談事業 日常的な悩みの軽減や不安の解消その他の相談について、専門スタッフが地域生活に必要なアドバイスをを行います。
- ◆地域交流事業 地域住民との交流をとおし障害者自身が社会参加することにより市民の障害に対する理解の促進を図ります。
- ◆情報提供事業 関係機関と連携を図りながら、市内の社会資源の紹介及び機関紙・各種案内・パンフレット・インターネット等で情報の提供を行います。
- ◆ピアサポート事業 当事者間における相互支援の促進を図っていきます。

今後の課題・展望

オープンから1年7ヶ月が経過した現在では月500名を超える利用者があり、多様化するニーズに的確に対応するため職員体制の充実や開館日の拡充が課題となっています。

今後とも、関係機関や地域とのパートナーシップの基に精神障害者が地域で生活できるように幅広い支援に取り組んでいきたいと考えています。